五ツ又自治会だより

平成26年9月号　第49号
発行日　2014/9/1
編　集　広報部

このところいやな話が続きます

このところ川越市内では不審者、放火の情報が増加しています。川越警察署に申し込むとメールで犯罪情報を手に入れることができます。そこからいただいた情報を一部掲載します。

まずは不審者情報。下表のように今年4月25日～8月26日までの124日間に市内で21件の不審者情報がありました。およそ6日に1件の発生です。これらは警察に被害届を出したものの一部で、これ以外に届けのないものがあるでしょう。実際の件数はもっと多いものと思われます。市内は夜間人通りが絶えることがあります。五ツ又地区では五ツ又交差点から河岸街道・初雁高校に向かう市道は気を付けてください。まれに暗がりに人の姿を見かけるという情報があります。

警察では、被害に遭わないために「周囲をよく確認する・時々振り返る」、危険を感じたら「防犯ブザーを鳴らす・大声で助けを呼ぶ、近くのお店や家に助けを求める」などの対策を要請しています。

また、イヤホンで音楽を聴きながら、スマホ・携帯電話を操作しながらの「ながら歩行」は、周辺に気が向かず不審者の発見が遅れる等、大変危険ですのでやめましょう。

㋺㋥	曜日	時刻	場所	被害者	加害者	加害者特徴	加害者身長	犯行
4月25日	金	1:30	砂	女性	男	白いポロシャツ･中肉		つきまとい
5月21日	水	14:00	大袋新田	女子高生	男20	中肉･紺色ジャージ	170cm	スカート内盗撮
5月27日	火	1:30	岸町	女性	男	中肉･黒スーツ	170cm	触る
5月28日	水	16:30	砂	女子高生	男40	小太り･オレンジTシャツ･		つきまとい･卑猥な言葉
5月28日	水	22:00	今泉	女性	男	黄色カッタシャツ黒ズボン･マスク		押し倒し
6月1日	日	0:15	砂	女性	男35	青色半袖シャツ	175cm	抱きつき
6月2日	月	18:30	脇田町	女子大生	男30～40	黄色半袖Tシャツ	150cm	声かけ
6月3日	火	13:30	菅原町	女性	男65～70	白ポロシャツ黒ズボン		触る
6月11日	水	22:00	霞ヶ関東	女性	男30～40	長袖シャツメガネ		つきまとい
6月17日	火	15:30	下広谷	児童	女	パンをあげる		声かけ
6月18日	水	8:30	脇田町	女性	男18～25	痩せ型カーキ色ジャケット野球帽	170cm	スカート内盗撮
6月19日	木	16:30	笠幡地内	女児	男50	灰色作業服		つきまとい
6月24日	火	7:30	月吉町	女子高生	男30～40	中肉黒Tシャツ黒野球帽メガネ	165cm	触る
6月24日	火	16:15	月吉町	女児	男40～50	中肉黒Tシャツ黒野球帽メガネ	165cm	下着を見せる
7月1日	火	11:10	砂新田4	女性	男35～45	中肉白ワイシャツ黒ズボン	170cm	触る
7月16日	水	12:15	笠幡地内	女子高生	男30～40	中肉白ワイシャツ黒ズボン	170cm	卑猥な言葉
7月17日	木	14:00	的場地内	こども	男30～40	暗色Tシャツメガネ	165cm	こどもにお金上げる
7月21日	月	13:30	大字的場					下着盗
8月6日	水	21:50	大字下広谷	女性	男	半袖Tシャツ、半ズボン	170cm	体に触る
8月20日	水	20:30	南通町	女子高生	男	半袖Tシャツ、野球帽	170cm	突き飛ばし乱暴な言葉
8月26日	火	21:00	岸町2	女性	男	白ワイシャツ、灰色ズボン、自転車	170cm	触る

次は放火です。8月29日川越市・ふじみ野市で計20件の放火をはたらいた男が逮捕されました。放火犯はまず屋外に置いてある紙ごみなどから火をつけ始め、次第に自転車・バイク・自動車と対象を変えます。最後には家に行くのですが、昔逮捕されたある男は面白半分つけた火が、予想外に延焼しその家人を焼死させてしまい、それが心の傷になって犯罪をさらにエスカレートさせたと常識では訳のわからない供述をしていました。火災初期のうちに消してしまうことが、その前に家の周りに燃える物を置かない注意が必要です。消火器や消火バケツを家に設備しておいたほうがよいでしょう。炎が上がらない工夫が必要です。炎を見るのが放火犯の目的のひとつですから。

最近空き家が増えています。ポストからはみ出たチラシなどは格好の放火対象になります。ご近所で面倒を見てください。郵便物は移動すると窃盗になりますのでご注意のほど。

放火はその昔は寒い冬場の事件でしたが、この頃は犯人の意識が変わってきたようです。

「小江戸川越防犯のまちづくり情報メール配信サービス」は川越市のホームページから登録できます。

平成26年五ツ又まつり

いやはや、悪天候には参りました。梅雨末期とは言え、あんなに雨が降るとはね。7月19日、20日の五ツ又まつりの話です。

19日は山車・神輿巡行から小雨、盆踊り最中も雨。踊りの矢口師匠も着物にしみこむ雨に閉口の呈。一日終わって会場の足元はぬかるみ状態。踊りの最中に何度か電源が落ちましたが、電源箱に雨が入り込んだのがその原因らしい。

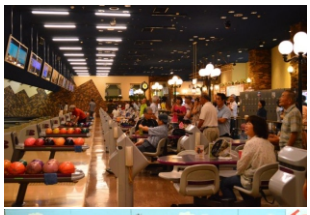
20日の日中、会場を下見に来た人がいました。今年はやってるのかが質問内容でした。昔に較べると音が聞こえないとのこと。森の公園の木の葉が防音材になっているのと、音量を下げていること、スピーカーを下向きにしていることなどで確かに静かかも。意地でもやります、そう答えました。ぶれて中止でもしたら子供たちになんと言われるか。

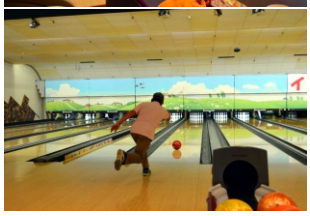
2日目午前中は幸い雨は止んで会場は乾いておりました。日中は曇りで何とかもったもちましたが、盆踊り時刻は一転にわかに掻き曇って強雨。雷は鳴るは、強風は吹くは。災害情報のメールでは川越市午後5時は82mmの大雨とか。五ツ又はそれほどではなかったようですが大雨には間違いありませんでした。彩の会の太鼓演奏は残念ながら中止です。

しかし、どうでしょう。昨年のごった返しはありませんでしたが、それでも2日間で参加者は延べ2000人はいたでしょうか。来賓の川合川越市長も「雨の中なのにこれほど人が集まるとは」とびっくりの呈。売店の売り上げも各店主納得の額であったようです。

なにより嬉しかったのは、盆踊り2日目は踊りの輪がしっかり2本できたこと。大人はもとより、幼稚園児・小学生・中学生までいました。いい光景でした。こういう非日常的なことは照れるものですけど、どうせ非日常のこと、振りを多少間違えてもご愛嬌、輪に入れば恥も見えなくなります。来年こそ踊りの輪へ。

ボウリング大会





6月15日（日）ふじみ野イーグルボールで五ツ又ボウリング大会が開催されました。参加者は例年より少し多い39名。会費千円で靴・飲料・２ゲームが付いてくるのですから安いものでしょう。

優勝は新井正司氏、準優勝は浅輪康允さんでした。レベルは毎年上がっているようです。

子供たちはボールが投げられれば参加できます。でも大人と同じレーンでは、同じ成績があげられるのはむずかしいです。そこのところはちゃんと考慮されていて、ガーター防止柵がつけてあるのですよ。子供たちにやる気を起こさせるのです。

参加者はこのところ固定されてきているようです。参加した人は同じ地域に住む人との交流に手ごたえを感じています。ゲーム中に交わす言葉はとっても親しげですから。もっと多くの人が参加され、お友達になるのを心待ちにしています。

街のリニューアル　2件

リニューアルのひとつ目。

森の公園のテーブル・ベンチが新しくなりました。

森の公園には休憩用のベンチがいくつか置かれています。大方は川越市の資産ですが、砂場近くのテーブル・ベンチは五ツ又自治会の製作管理下にあります。野ざらしですから雨風にだいぶ傷めつけられました。ねじが緩んでロッキングチェアー風でしたね。７月の末この２セットのテーブル・ベンチを

リニューアルしました。手がけて下さったのは22区の宮本知次氏です。座ってみてください。ユラユラしてたのがしっかりしてます。アマチュアの手になったものとはとても思えません。

リニューアルのふたつ目。

市道を改修しました。14-2区（旧第5児童公園）から16区を通り横田宅あたりの市道に届く道は、所沢街道へ、また五ツ又交差点を東西に渡らずに川越街道に至る道としてこの頃利用されているようですが、もともと生活道路です、整備はされていませんでした。雨が降ると冠水して面倒な道でした。ここに側溝を通し舗装し直しました。道路の際が際立ってとてもきれいな道になりました。排水もOKです。広がって見えますが幅は全く変わってません。自動車で通るときは速度に十分注意してください。

▶▷▶▷▶▷▶▷ 話のネタ ◁◀◁◀◁◀◁◀

川越に将門の血脈あり

またまた昔、前回よりも500年も前の話で恐れ入ります。川越夜戦の取材の際に上戸の常楽寺ご住職にお世話になりましたので、折角ですから今回はその時伺った話をします。

時代によって変わりますが、天皇の5世の孫までの皇親と呼ばれる皇族の生計は国家が面倒を見てました。平安時代中ごろ、対象の皇親が増えすぎ国家財政は逼迫します。そこでとった政策は皇親のリストラでした。

桓武天皇4世（曾孫）高望王は、この対象になり平姓を賜って皇籍から臣籍に降下、平高望になりました。その見返りは上総介職（次官級）任命です。こういう場合、大方本人は都にいて管理は他人に委任する遥任の形をとります。ところが高望は息子の国香・良兼・良将らを引き連れて千葉に下向しました。このころ日本各地に国家公認私有地（荘園）が増え、その保全のために武装集団が必要となっていました。平高望は任期が終わっても都には帰らず、もと皇親であることを武器に地元の豪族と結びつきを強め、坂東武士団を形成しました。関東平野のほとんどは平氏のテリトリーになりました。のち「平家」として西日本を支配した清盛は伊勢平氏で高望の長子国香（常陸平氏）の流れです。

良文は高望王の5男です。親に従わず都に残留しておりましたが、時の天皇の指示を受けて遅れて関東の熊谷あたりに下向、その後数々の武勲をあげました。所領は神奈川藤沢です。

良文の子は忠頼、その子将恒は荒川をさかのぼっていま流星花火で有名な秩父吉田に館を構え秩父氏と称しました。秩父氏はここから荒川を下り、数代かけて関東地方に展開していきます。平氏の姓は「平」ですから坂東武士団の長の姓はみんな「平」。区別がつかないので通例領地の地名を姓にします。畠山、高山、江戸、葛西、千葉、渋谷、三浦、河崎、鎌倉、相馬など各氏は有名ですが、最も私たちに身近なのは川越を領した河越氏です。川越市上戸に拠点河越館を作りました。河越氏は将恒の長男の畠山氏筋を抑えて武蔵国の武士団の頭領でした。秩父平氏は常陸の平氏とは反目してましたので、源氏と組み、鎌倉幕府の設立に力を尽くました。当主河越重頼は妻を源頼家の乳母として召されたり、娘郷御前を義経の正室に迎えられたり、鎌倉幕府でも高い地位を築きました。領地を安堵するため後鳥羽上皇の信仰する新日吉神社を領内に勧請し、自領を寄進して天皇家とのつながりを深めたりとさまざま努力したのですが、頼朝・義経の抗争に巻き込まれ没落しました。

河越館跡は1984年国史跡になり、その後発掘調査を経て2009年一部を史跡公園として整備されまし

河越館碑

常楽寺

日枝神社（新日吉神社）上戸

た。あたりで目に見える史跡としては土塁跡、河越氏念仏堂だった常楽寺が残るのみですが、いずれは全体が公園として整備されるようです。資料館はありませんが、発掘品などは近くの上戸小に保管されており週末に公開しているようです。小江戸以前の川越を顧みてはいかが。

さて、高望王の子の3男の良将と5男の良文は親交がありました。良将の子にあの将門がいます。将門の娘春姫は良文の息子忠頼に嫁ぎました。つまり秩父平氏の始祖平将恒の祖父の一人が将門ということになります。将門は伯父国香に掠奪された領地奪還の争いをしました。これが将門と対立した常陸の平氏と秩父平氏が仲良くない理由といわれています。千年過ぎたいまでも江戸では神田神社に祀られて人気の高い将門ですが、その血脈が河越氏にも受け継がれていた。現代から見ると川越は江戸と徳川時代の芋以前からの深い縁があるのです。

五ツ又自主防災会とは　地域における防災活動の拠点

自主防災会は何をするか。

本来、防災は国家的事業であり行政が担当するものとされてきました。国内で大きな災害が多くなかった時代の話です。この考え方をある災害が動揺させました。阪神淡路大震災です。この地震では概数ですが死者・不明者は6500名、負傷者は44000名を数えました。この状況下で行政は力を出せませんでした。負傷者の98%は公的機関ではなく地域住民の力で救出されたのです。行政が無能だったのではありません。交通がマヒしたことで消防署などの設置場所から現場への移動が難しく、また事件の数が多すぎて対処できませんでした。

地域住民に頼らず大規模な災害に対応するには、人的資源の大量投入や莫大なコストが必要となります。甚大な被害の個々に現実に対応するのは行政では不可能であることが認識され、地域住民の活動が重要であることが認識されました。自主防災組織の役割が期待されたのです。

しかし組織の中心はどこに置くか、それが問題です。かつて地縁社会の集落にはボスがいて、その人を中心に村の運営がされていました。大事があった時には住民はその人の動きを見て意思を決定していたはずです。ところが五ツ又のような新開地の住民はサラリーマン所帯であり、個々の世界を持ち、コミュニティ意識が薄く、民主的ですがまとまるのに時間がかかります。

広島県安佐北・南区の住民は今回の災害に際してどう動いたか、象徴的な話があります。土砂崩れの後、ある地区で住民がまとまり下の道に避難することになりました。ところが地区の左右の広い道（旧沢に作られた）と中心部の人ひとりやっと通れる道（尾根道）のどちらを使うかで意見が対立しました。いつの間にかリーダーになっていた老人は中心部の道を勧めました。これに対して異論が出ました。舗装されている方が安全と考えた者もいたようです。結局孤立を嫌った者の多くが中心部の道を選び無事麓に下りることができました。少数が選んだ左右の道はもとは沢ですから土砂で埋もれ歩行が困難だったようです。死者・負傷者がでなくてよかったです。

自主防災組織に期待される役割は、地域住民が協力して日頃の見回りや防災グッズの購入、火災防止活動、消化訓練、避難訓練を行うこと、火災の場合は、当局への通報と初期消火をすることです。大災害においては集団避難、避難生活活動、災害弱者の情報把握・安全確認などを行い、その情報を消防などに連絡するなどです。

自主防災組織の活動は住民の善意と自主に基づくのでその構成員に公的責任や権利義務などは発生しません。有事の際に、行政からなんらかの協力を求められても応える必要はありません。ただ地域で発生した問題を避けていると道義的には社会的に何か言われそうですが。

いざという時、住民が協力してことに当たるには組織と訓練が必要です。消火訓練や避難訓練を真似ごとながらでも開催し、いざの時に備えることが肝要です。いずれにせよ組織がなければできないこと、住民の意識が向かないと不可能ですが。

「五ツ又は災害に対して安全だ」はよく言われますが、この考え方は論証のない伝説になっていないでしょうか。災害地で住民が必ず言う「こんなの生まれて初めて」という言葉が耳に残ります。